

研究主題

未来を拓く国語教育の創造

—評価活動の充実を通して、学びの質を高める単元づくり—

読むこと部 研究主題

学びの質を高める、評価活動と指導の工夫

第2学年国語科学習指導案

単元名

じぶんの「すごい」と思ったところをせつめいしよう

～さけのせいちょうについてまとめ、自分の考えをもとう～

学習材名「さけが大きくなるまで」(教育出版 2年)

日 時: 令和4年2月18日(金)5校時

児 童: 文京区立千駄木小学校 第2学年1組 28名

担 任: 文京区立千駄木小学校 教諭 田中 理津子

指導者: 品川区立京陽小学校 主任教諭 上野 美智恵

1 単元の目標

- 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。
(知識及び技能)
- 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。(1)オ)	①「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 (C(1)ア) ②「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)	①進んで時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、学習したことを生かして、自分の考えをもち、友達に説明しようとしている。

3 単元構想

(1) 児童について(児童観)

児童は、これまでの学習を通して、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、説明的な文章の内容を捉える経験を積み重ねてきており、文章の構成についても少しずつ理解してきている。

説明的な文章の内容を捉える上で、児童が出てきた言葉の意味を理解し、語彙を広げていくことが大切である。本単元では、さけの名称や「時」「場所」「大きさや様子」を表す言葉などの理解を深めるために、写真と結び付けて考えさせたり、実物大資料を提示したりして、児童が具体的なイメージをもてるようにする。また、川の絵図にまとめの中で出てきた自分の考えや疑問を、自分の「すごい」と思ったところを友達に説明するという言語活動に生かせるようにしたい。

(2) 学習材について(学習材観)

本学習材は、さけの遡上から始まり、産卵と孵化、川を下り海で回遊し、再び母川に戻ってくるという、循環する過程を述べており、さけの成長過程を時間的な順序や場所の変化に沿って分かりやすく書かれている文章である。さけは、児童にとっては身近な魚ではあるが、その成長過程については、知らないことが多いと思われ、様々

な発見をしなから、興味をもって読み進めることができる。と考える。

本文の構成としては、「どこで生まれるのか」「どのようにして大きくなるのか」と2つの問いに答える形で説明がされている。2つめの問いについては、今まで児童が学習してきた説明的な文章と違い、答えを1か所からではなく、文章全体から、それぞれの成長段階を捉えて時間的順序で整理する必要があり、児童にとって難しい課題となる。

そこで、さけの成長過程を、「時」「場所」「大きさや様子」という視点で捉え、大事な言葉や文を選び出して、川の絵図にまとめたり、写真と結び付けたりすることで、児童が内容を捉えやすくなると考えた。

(3) 単元について(単元観)

本単元のねらいである、「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること」と「文章の中の大事な語や文を考えて選び出すこと」の2つを達成するため、順序に気を付けながら、さけの成長過程を川の絵図にまとめることで内容を捉え、それを基に、「じぶんが『すごい』と思ったところを友達に説明する」という言語活動を設定した。

本単元では、本文を読んで、自分が「すごい」と思ったところを取っ掛かりとして、さけの成長過程に興味をもち、時間的な順序から内容を捉え、各成長過程において、自分が「すごい」と思ったところについて、大事な言葉や文を自分なりに川の絵図にまとめたり、友達と考えを共有したりするを通して、より深く内容を理解できるようにする。また、学習を終えて、改めて「すごい」と思ったところとそのわけを友達に川の絵図を使って説明することで、自分の理解したことを整理することができる。と考えた。

4 研究主題に迫るために

(1) 学びの質の向上を図る単元の工夫

① 学びの必然性をもたせる学習過程の工夫

初発の感想として、「すごい」と思ったところやそのわけを共有する中で、場所や順序、成長の過程に関する発問を教師側から意図的に行い、単元の最後に友達に分かりやすく説明するためには、さけの成長過程についてさらに内容を理解していく必要があることを児童に気付かせ、目的意識をもたせる。

また、「どこで生まれるのか」「どのようにして大きくなるのか」という2つの問いに対する答えを見付けていく際に、「場所」や「場所の変化」に対する児童の意識が高まり、使う必要性を感じるであろうという考えから、第2時に川の絵図の導入を行うこととした。

② 見通しをもたせる広域の絵図の活用

川から海までの広域の絵図を活用することで、全体から見た本時のさけの位置関係を捉えたり、さけの場所移動の流れや循環していることを児童が想像したりやすくする。また、提示された絵図と同じように、自分なりの川の絵図を作ってまとめてみたいという意欲をもたせる。

③ 豊かな語彙の拡充

○ 読みの視点の提示

「どのようにして大きくなるのか」という問いに対して答えるためには、成長過程全体をまとめる必要があること、そのため、「時」「場所」「大きさや様子」という3つの視点で内容を捉えると説明できることを児童と共有する。また、分からない言葉については、全体で共有する際に、具体的なイメージをもたせ理解できるようにする。そして、理解した言葉を、自分の考えを友達に説明する際にも活用させていく。

○ 視覚資料の活用

本文中に出てきた言葉については、写真と結び付けて考えさせたり、実物大資料を提示したりして、具体的なイメージをもたせる。動きの様子については、動作化をすることで、理解を促していく。

○ 「すごい」の捉え方の共有

単元の導入で、「すごい」という思いは、どのような気持ちなのかを具体的に児童と共有することで、語彙を広げていく。

例: 驚いた、感動した、素敵、素晴らしい、立派、偉い、初めて知った 等

(2)学習改善・授業改善につながる評価活動の工夫

① 評価規準の共有と学びの手引き(ワザ)の活用

一次では、今まで学習してきた説明的な文章を振り返り、どのようなワザを使って課題を解決してきたのかを共有し、本単元でも、そのワザを活用したり、新たなワザを見付けたりすることを確認する。そして、そのワザを使って、さけの成長について自分なりにまとめたり、考えをもったりするという言語活動の見通しをもたせる。また、川の絵図にまとめるためには、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える力、大事な言葉や文を選び出す力、学習したことを基に、自分の考えをもって説明する力が必要であることを確認し、児童の実態に合った言葉で評価規準を共有する。

二次では、さけの成長段階ごとに、内容を捉え、自分の「すごい」と思ったところを中心として川の絵図にまとめる上で、どのようなワザを使って課題を達成できたのかを、振り返りとして書いたり、全体で共有したりする。振り返りの視点としては、「今日のめあてを達成できたか。」「どんなワザを使って、自分が『すごい』と思ったさけの様子を川の絵図にまとめることができたか。」を提示し、第5時～7時の学習の終わりにノートに書く。また、本単元で新たにでてきたワザについては、「学びのワザ」を書いた模造紙に、付け加えていく。

三次では、本単元全体の学習を振り返り、「学びのワザ」をまとめる時間を設定する。まとめる視点としては、「本単元で出てきた学びのワザ」「ワザに対する振り返り」「次の学習で生かしたいこと」「さけの成長の様子を川の絵図にまとめたり、自分の『すごい』と思ったところを友達に説明したりするのに役に立った言葉」を提示する。本単元の学習を改めて振り返ることで、一次で提示した力を身に付けられたことを自覚したり、次の学習で生かそうとする意欲をもったりすることができるようにする。

(3)言葉の力の活用を意識した学習活動の工夫

① 既習の「学びの手引き(ワザ)」の振り返り

単元の導入で、1年生から積み重ねてきた「学びのワザ」を振り返ることで、児童が今までできるよくなったことを自覚し、そのワザを活用したり、新しいワザを見付けていこうとする意欲をもたせる。

【これまでの学びのワザ】

- 何が出てくるかを確認する。
- それぞれのまとまりに何が書いてあるか考える。
- 大事な言葉を見付ける。
- 順序を確認する。
- 問いの文と答えの文を見付ける。
- つなぎ言葉の後を読む。
- 絵、写真を見る。
- 答えを見付けるための言葉（文末、表現）に気を付ける。
- 筆者の言いたいことを見付ける。 等

【本単元で加わるのが予想される学びのワザ】

- 時、場所、大きさや様子を表す言葉を見付ける。
- 絵を使ってまとめる。
- 問いの文と答えの文を見付ける。→二つのことを訊く問いがある。
答えが全体に書かれている。

② 川の絵図の作成

二次で、さけの各成長段階における大事な言葉や文を選び出し、自分が「すごい」と思ったところを中心に自分なりに川の絵図にまとめることを積み重ねていく。積み重ねる中で、少しずつ自分で本文から大事な言葉や文を見付けたり、川の絵図に自分なりにまとめたりする力が付いていく。また、それぞれの川の絵図を繋げていくことで、時間の経過と成長の様子を関連させて考えたり、さけの成長の全体を視覚的に捉えたりすることで、理解を深め、自分の考えを整理することができるようになる。川の絵図は、児童が自分なりにまとめやすいように、マスの有るもの、無いものの2種類から選択できるようにし、第4時で基本的な書き方を全体で押さえることで、第5時から児童が自分なりに工夫してまとめることができるようにする。

5 単元計画(全7時間)

次	時	学習過程	学習活動	○指導上の留意点 手引きの活用	◆評価規準 ★評価方法
一	1		1 さけについて知っていることを出し合う。 2 教師の範読を聞く。 3 自分が「すごい」と思ったところやわけを発表する。 4 これまでの説明的な文章の学習や「学びのワザ」について振り返る。 5 単元のめあてを知る。	○さけについて自分が知っていることと知らないことを意識させる。 ○初発の感想の視点を伝えておく。 ○児童が挙げた難しい語句については、広域の絵図等を提示して確認する。 ○さけの成長で自分が「すごい」と思ったところやわけをノートに書き、発表するようにする。 ○出てきた意見を基に、場所や順序、成長過程について発問し、内容をさらに理解する必要性に気付かせる。 手引きの活用 ・既習の学習材を基に、内容を捉えるために、どのような「学びのワザ」を使ってきたのかを振り返る。	
			さけのせいちょうについて、自分が「すごい」と思ったところをせつめいしよう。	手引きの活用 ・「学びのワザ」を活用しながら、順序に気を付けて、さけの成長過程を捉えていくこと、終末では、自分が「すごい」と思ったところを、友達に分かりやすく説明することを確認し、見通しをもたせる。	
	2	構造と内容の把握	1 全文を音読する。 2 問いの文を見付け、ノートに書く。 3 問いに対する答えを、自分なりにノートにまとめる。 4 問いに対する答えを見付けるために、さけの成長過程を何に着目して捉えればよいかを考え、学習計画を立てる。	○全文シートを活用させる。 ○問いの文を意識させる。 ○本学習材は、2つの問いがあることを確認する。 ○問い②の答えは、1か所に書かれているのではなく、全体に書かれていることを押さえる。 ○答えをまとめるためには、場所の変化を捉えることが大切であること、川の絵図を使うよさや必要性を児童が感じられるようにする。	◆【思－①】時間的な順序を考えながら、各段落の内容の大体を捉えているかの確認。 B：全文シートに、「時」や「場所」を表す言葉、主語と述語にサイドラインを引いている。

		構造と内容の把握	5 「いつ(時)、どこで(場所)、だれが(主語)、何をしたのか(述語)」を段落ごとに捉える。	<p>手引きの活用</p> <p>・「時」「場所」「大きさや様子」を表す言葉に着目し、順序や様子に気を付けて、さけの成長過程を捉え、川の絵図にまとめていくこと、川の絵図にまとめるのに「学びのワザ」を活用することを確認し、見通しをもたせるとともに、評価規準を共有する。</p> <p>○「時」は赤、「場所」は青のサイドライン、主語は丸囲み、述語は黒のサイドラインを引くようにする。</p> <p>○次時からは、「大きさや様子」を表す言葉に着目し、「すごい」と思ったところを見つけていくことを確認する。</p>	<p>A：全文シートに、「時」や「場所」を表す言葉、主語と述語にサイドラインを引き、それぞれの問いの答えがどこに書かれているのか、見付けている。</p> <p>★全文シート</p>
二	3	精査・解釈 考えの形成	<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <p>大人のさけがたまごをうむまでのようすについて、「すごい」と思ったところをまとめよう。</p> <p>2 第2、3段落を音読する。</p> <p>3 大人のさけが川で卵を産むまでの様子について、「時」、「場所」「大きさ」を川の絵図に書き込む。</p> <p>4 問い1の答えを見付ける。</p> <p>5 「今日のすごい」を見付け、関連した「様子」を表す言葉を本文から捉え、川の絵図にまとめる。</p> <p>6 「今日のすごい」について、友達と交流する。</p>	<p>手引きの活用</p> <p>・前時で確認した「学びのワザ」を本時でも自分で使っていくように促す。</p> <p>○単元のめあてを振り返り、「今日のすごい」を積み重ねていくことを確認する。</p> <p>○広域の絵図で、全体の中の位置づけを確認する。</p> <p>○第4段落で、さけの赤ちゃんが生まれることから、第3段落で大人のさけが卵を産むところに、問い1「どこで生まれ」の答えが書かれていることを確認する。</p> <p>○接続語を押さえる。</p> <p>○全体で、「時」や「場所」、さけの絵や「大きさ」を川の絵図のどこに書けば分かりやすいかを児童に問いかけながら、一緒に川の絵図のまとめ方を確認する。</p> <p>○川上で生まれたことを押さえる。</p> <p>○今日の学習で、「すごい」と思ったところを友達に分かりやすく説明するために、関連する「様子」を表す言葉を川の絵図に書き込むことを確認する。</p> <p>○「すごい」と思った気持ちや理由を吹き出しに書き込む。</p> <p>○川の絵図を見せながら、友達に説明するように促す。</p> <p>○2人組、全体で交流した後に自分の考えを付け加えてもよいことにする。</p> <p>○児童からの意見を拡大した川の絵図にまとめる。</p>	

			<p>7 本時の学習を振り返り、めあてに対して自分の読みが適切だったか、ノートに書く。</p>	<p>○「場所」や「大きさや様子」を表す言葉については、写真や実物大資料、動作化を活用し、児童が具体的なイメージがもてるようにする。</p> <p>手引きの活用 ・振り返りの視点として、「今日のめあてを達成できたか。」「どんなワザを使って、自分が『すごい』と思ったさけの様子を川の絵図にまとめることができたか。」を投げ掛ける。</p> <p>○次時では、自分で川の絵図にまとめていくことを確認する。</p>	<p>◆【思－②】文章から大事な言葉や文を選び出し、「すごい」と思ったところについて川の絵図に自分なりにまとめているかの確認。</p>
4	精査・解釈	考への形成	<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>赤ちゃんのさけが大きくなるようすについて、「すごい」と思ったところをまとめよう。</p> <p>2 第4段落を音読する。</p> <p>3 赤ちゃんのさけが成長する様子について、「時」、「場所」、「大きさ」を川の絵図に書き込む。</p> <p>4 「今日のすごい」を見付け、関連した「様子」を表す言葉を本文から捉え、川の絵図にまとめる。</p> <p>5 「今日のすごい」について、友達と交流する。</p>	<p>手引きの活用 ・前時に使った「学びのワザ」を全体で振り返り、模造紙の「学びのワザ」に付け足し、本時でも自分で使っていくように促す。</p> <p>○広域の絵図で、全体の中的位置づけを確認する。</p> <p>○書き込んだ後に、全体で確認する。</p> <p>○接続語を押さえる。</p> <p>○「すごい」と思った気持ちや理由を吹き出しに書き込む。</p> <p>○川の絵図を見せながら、友達に説明するように促す。</p> <p>○2人組、全体で交流した後に自分の考えを付け加えてもよいことにする。</p> <p>○児童からの意見を拡大した川の絵図にまとめる。</p> <p>○川の絵図を見せながら、友達に説明するように促す。</p> <p>○2人組、全体で交流した後に自分の考えを付け加えてもよいことにする。</p> <p>○児童からの意見を拡大した川の絵図にまとめる。</p> <p>○「場所」や「大きさや様子」を表す言葉については、写真や実物大資料、動作化を活用し、児童が具体的なイメージがもてるようにする。</p>	<p>B: 自分が「すごい」と思ったところについて、様子を表す言葉を本文から選び出し、川の絵図に書き込んだり、気持ちや理由を自分なりに書いたりしている。</p> <p>A: 自分が「すごい」と思ったところについて、様子を表す言葉を本文から選び出し、川の絵図に書き込み、「すごい」と思った理由を今までの学習や自分の経験と結び付けて書いている。</p> <p>★川の絵図・観察</p> <p>※ 第3～6時の中で評価</p>

	5 (本時)	精査・解釈 考えの形成	6 本時の学習を振り返り、めあてに対して自分の読みが適切だったか、ノートに書く。	手引きの活用 ・振り返りの視点として、「今日のめあてを達成できたか。」「どんなワザを使って、自分が『すごい』と思ったさけの様子を川の絵図にまとめることができたか。」を投げ掛ける。
			1 本時のめあてを確認する。 子どものさけが大きくなるようすについて、「すごい」と思ったところをまとめよう。	手引きの活用 ・前時の振り返りで書いたことを見返し、本時でも生かせるようにする。 ○広域の絵図で、全体の中の位置づけを確認する。 ○書き込んだ後に、全体で確認する。 ○「すごい」と思った気持ちや理由を吹き出しに書き込む。 ○川の絵図を見せながら、友達に説明するように促す。 ○2人組、全体で交流した後に自分の考えを付け加えてもよいことにする。 ○児童からの意見を拡大した川の絵図にまとめる。 ○「場所」や「大きさや様子」を表す言葉については、写真や実物大資料、動作化を活用し、児童が具体的なイメージがもてるようにする。
	6		6 本時の学習を振り返り、めあてに対して自分の読みが適切だったか、ノートに書く。	手引きの活用 ・振り返りの視点として、「今日のめあてを達成できたか。」「どんなワザを使って、自分が『すごい』と思ったさけの様子を川の絵図にまとめることができたか。」を投げ掛ける。
			1 本時のめあてを確認する。 さけが海で大きくなるようすについて、「すごい」と思ったところをまとめよう。	手引きの活用 ・前時の振り返りで書いたことを見返し、本時でも生かせるようにする。 ○広域の絵図で、全体の中の位置づけを確認する。

		<p>精査・解釈</p> <p>考えの形成</p> <p>3 海で大きくなるさけの様子について、「時」、「場所」、「大きさ」を川の絵図に書き込む。</p> <p>4 「今日のすごい」を見付け、関連した「様子」を表す言葉を本文から捉え、川の絵図にまとめる。</p> <p>5 「今日のすごい」について、友達と交流する。</p> <p>6 本時の学習を振り返り、めあてに対して自分の読みが適切だったか、ノートに書く。</p>	<p>○書き込んだ後に、全体で確認する。</p> <p>○「すごい」と思った気持ちや理由を吹き出しに書き込む。</p> <p>○川の絵図を見せながら、友達に説明するように促す。</p> <p>○2人組、全体で交流した後に自分の考えを付け加えてもよいことにする。</p> <p>○児童からの意見を拡大した川の絵図にまとめる。</p> <p>○「場所」や「大きさや様子」を表す言葉については、写真や実物大資料、動作化を活用し、児童が具体的なイメージがもてるようにする。</p> <p>手引きの活用 ・振り返りの視点として、「今日のめあてを達成できたか。」「どんなワザを使って、自分が『すごい』と思ったさけの様子を川の絵図にまとめることができたか。」を投げ掛ける。</p>	
三	7	<p>考えの形成・共有</p> <p>1 川の絵図を読み返す。</p> <p>2 自分が「すごい」と思ったところとそのわけをノートに書く。</p> <p>3 書いたことを友達と交流する。</p> <p>4 本単元での「学びのワザ」を振り返り、シートにまとめる。</p>	<p>○今まで書いてきた川の絵図を読み返し、さけの成長過程や自分が「すごい」と思ったところを振り返る。</p> <p>○わけを書く際には、川の絵図にまとめてきたことを根拠にすることを確認する。</p> <p>○交流する際には、川の絵図を示しながら、自分が「すごい」と思ったところやそのわけを伝えるようにする。</p> <p>手引きの活用 ・「学びのワザ」には、以下の内容を書く。 ①本単元で新しく出てきたワザと振り返り(次の学習で生かしたいこと) ②さけの成長の様子を川の絵図にまとめたり、自分の『すごい』と思ったところを友達に説明したりするのに役に立った言葉</p>	<p>◆【主-①】「すごい」と思ったところとそのわけを書き、友達に説明しているかの確認。</p> <p>B: 「すごい」と思ったところとわけを自分なりに説明している。</p>

		<p>5 「学びのワザ」のシートに書いたことを共有する。</p>		<p>A: 「すごい」と思ったところについて、今までの学習や自分の経験と結び付けてわけを伝えたり、川の絵図を活用しながら説明したりしている。</p> <p>★ノート・観察</p> <p>◆知技－①「学びのワザ」として、自分にとって役に立った言葉を振り返って書いているかの確認。</p> <p>B: 「時」「場所」「大きさや様子」を表す言葉から、役に立った言葉を書いている。</p> <p>A: 自分が友達に「すごい」を説明する際に、根拠となった言葉を書いている。</p> <p>★「学びのワザ」のシート・観察</p>
--	--	----------------------------------	--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

考えの形成・共有

6 本時の学習(5/7)

(1) 本時のねらい

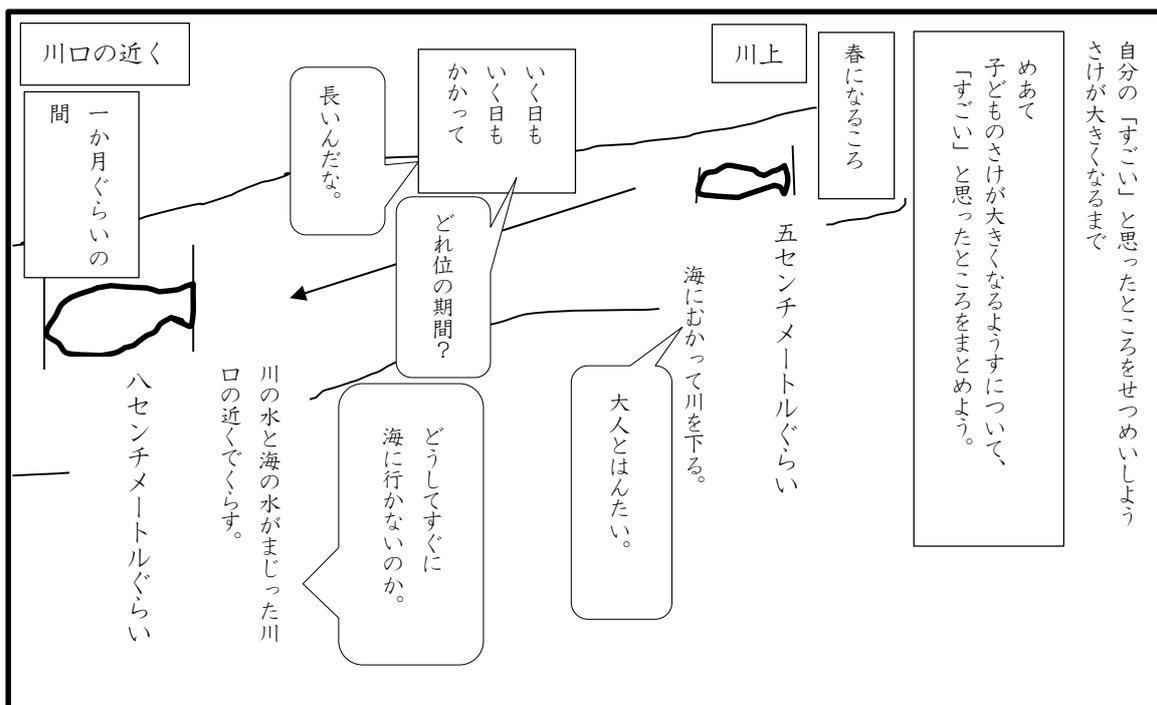
「大きさ」や「様子」を表す言葉に着目して、子どものさけの様子について、自分が「すごい」と思ったところを川の絵図にまとめる。

(2) 本時の展開

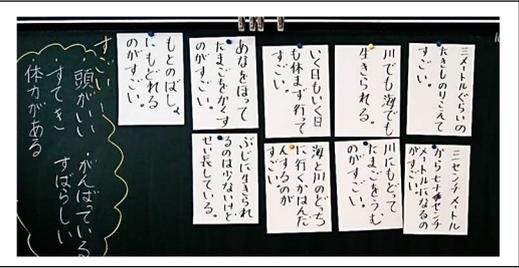
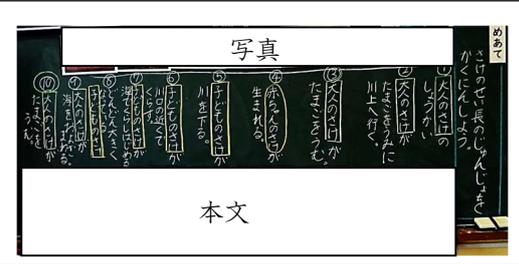
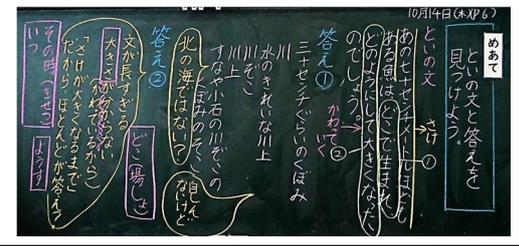
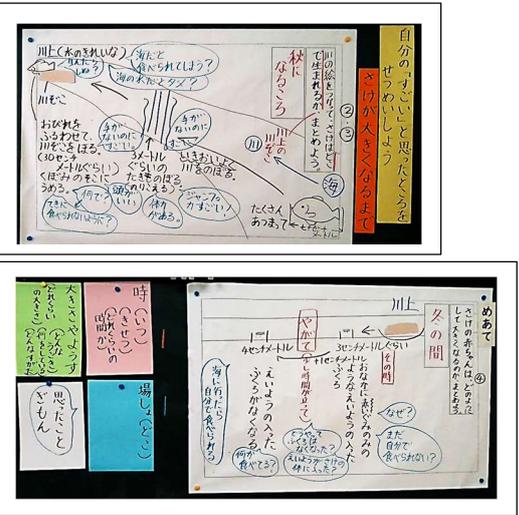
学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
<p>1 本時のめあてと課題を確認する。</p>	<p>○問いの文の中の、「どのようにして大きくなったのでしょうか。」に対する答えをまとめていることを確認する。</p> <p>手引きの活用</p> <p>○前時の振り返りや、使ったワザを確認し、本時でも生かせるようにする。</p> <p>○さけの成長写真の中で、本時はどの段階(子ども)についてまとめるかを確認する。</p> <p>○まとめた後、「今日のすごい」を友達に説明することを確認する。</p>	
<p>子どものさけが大きくなるようすについて、「すごい」と思ったところをまとめよう。</p>		
<p>2 本時の段落(5、6段落)を音読する。</p> <p>3 子どものさけが成長する様子について、「時」、「場所」、「大きさ」を川の絵図に書き込む。</p> <p>4 「今日のすごい」を見付け、関連した「様子」を表す言葉を本文から捉え、川の絵図にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いく日もいく日もかかって川を下っているのがすごい。 ・水に流されながら川を下るなんて驚いた。 ・どうして、川と海の水がまじったところで1か月を過ごすのかな。 ・川と海の水がまじった川口で大人になるためのじゅんぴをするんだな。 ・1か月かけて3センチメートル大きくなるんだな、けっこうゆっぴりなんだな。 	<p>○広域の絵図で、全体の中の位置づけを確認する。</p> <p>○「時」「場所」「大きさや様子」を意識して読むように促す。</p> <p>○川の絵図は、マスの有るものとマスの無いものを用意し、書きやすい方を選択できるようにする。</p> <p>○子どものさけの様子を絵で表す際に、必要があれば、写真を活用してよいこととする。</p> <p>○机間指導中、全体指導につながる書き込みを選び、板書用の紙に書くよう指示する。</p> <p>○書き込んだ後に、全体で共有する。</p> <p>○「すごい」と思った気持ちや理由を吹き出しに書き込む。</p> <p>評価に対する指導</p> <p>○概ね満足できる児童への手立て つなげた川の絵図を広げて、全体を見ながらさらに自分の考えを付け足すように促す。</p> <p>○概ね満足できる状況を目指す児童への手立て 「様子」を表す言葉がさけの成長のどの過程になるのか、写真に目を向けさせたり、具体物を手に取らせたりして具体的にイメージできるように支援する。</p>	<p>◆【思考・判断・表現②】 文章から大事な言葉や文を選び出し、「すごい」と思ったところについて川の絵図に自分なりにまとめているかの確認。</p> <p>B：自分が「すごい」と思ったところについて、様子を表す言葉を本文から選び出し、川の絵図に書き込んだり、気持ちや理由を自分なりに書いたりしている。</p>

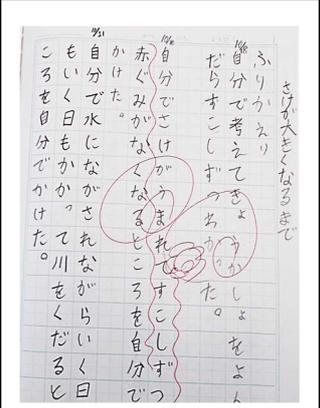
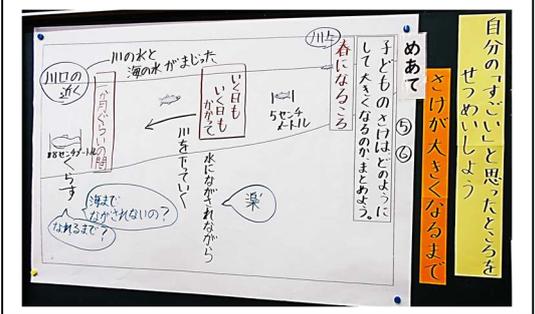
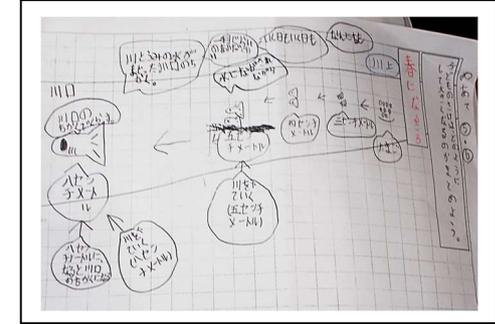
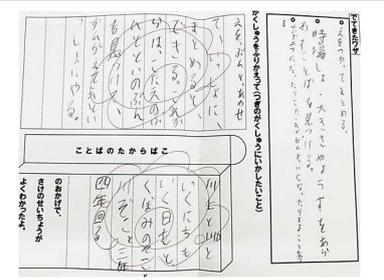
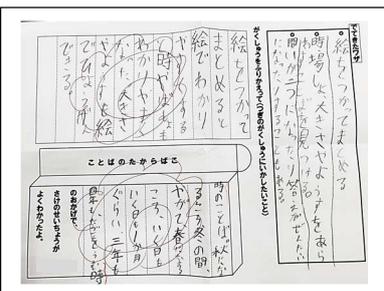
<p>5 「今日のすごい」について、友達と交流する。</p> <p>6 本時の学習を振り返り、めあてに対して自分の読みが適切だったか、ノートに書く。</p>	<p>○川の絵図を見せながら、友達に説明するように促す。</p> <p>○2人組、全体で交流した後に自分の考えを付け加えてもよいことにする。</p> <p>○児童からの意見を拡大した川の絵図にまとめる。</p> <p>○「場所」や「大きさや様子」を表す言葉については、写真や実物大資料、動作化を活用し、児童が具体的なイメージがもてるようにする。</p> <p>手引きの活用</p> <p>・振り返りの視点として、「今日のめあてを達成できたか。」「どんなワザを使って、自分が『すごい』と思ったさげの様子を川の絵図にまとめることができたか。」を投げ掛ける。</p>	<p>A：自分が「すごい」と思ったところについて、様子を表す言葉を本文から選び出し、川の絵図に書き込み、「すごい」と思った理由を今までの学習や自分の経験と結び付けて書いている。</p> <p>★川の絵図・観察</p>
--------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<板書計画>



事前授業の実際

過程(次)	時	学習活動	授業の様子・板書
一	1	<p>○自分が「すごい」と思ったところやわけを发表或し、これまでの説明的な文章の学習や「学びのワザ」について振り返ったりする中で、学習のめあてを知る。</p> <div data-bbox="403 450 778 589" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>さけのせいちょうについて、自分が「すごい」と思ったところをせつめいしよう。</p> </div>	<p>初発の「すごい」に、順序や場所をくわしく尋ねることで、「学びのワザ」を使ってもっと詳しく読もう、という意識をもたせることができた。</p> 
	2	<p>○さけの成長段階に合うように、写真の並べ替えをする。</p> <p>○段落ごとに主語を確認し、内容の大体を捉え、ノートにまとめる。</p>	<p>成長段階を整理することで、成長の循環に気付くことができた。</p> 
	3	<p>○問いの文を見付ける。</p> <p>○問いに対する答えを、自分なりにノートにまとめる。</p> <p>○問いに対する答えを見付けるために、さけの成長過程を何に着目して捉えればよいかを考え、学習計画を立てる。</p>	<p>問いに対する答え方に迷う経験をさせることで、「時」、「場所」、「大きさや様子」に着目して読む必要性、川の絵図にまとめようとする意欲につながった。</p> 
二	4 5	<p>○さけはどこで生まれたのか、赤ちゃんはどのようにして大きくなるのか、「時」、「場所」、「大きさや様子」に着目して内容を捉え、川の絵図に書き込む。</p>	<p>川の絵図にまとめることで、場所、大きさや様子の変化を捉えようとする意識が高まった。</p> 

<p>6 (本時)</p>	<p>○本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 子どものさけは、どのようにして大きくなるのか、まとめよう。 </div> <p>○本時の段落を音読する。 <p>○子どものさけの様子について、「時」、「場所」、「大きさや様子」に着目して内容を捉え、川の絵図に書き込む。 <p>○友達と考えを交流する。 <p>○本時の学習を振り返り、めあてに対して自分の読みが適切だったか、ノートに書く。</p>  </p></p></p></p>	<p>前時の振り返りや使った学びのワザを確認すること、川の絵図にまとめる活動を繰り返すことで、「時」、「場所」、「大きさや様子」を的確に捉えられるようになってきた。広域の川の絵図を用いることで、場所を把握しやすくなった。</p>  
<p>7</p>	<p>○さけは海でどのようにして大きくなるのか、「時」、「場所」、「大きさや様子」に着目して内容を捉え、川の絵図に書き込む。</p>	
<p>三</p>	<p>8</p> <p>○さけのせいちょうについて、自分が「すごい」と思ったところとそのわけを、川の絵図を使いながら友達と交流する。 <p>○本単元での「学びのワザ」を振り返り、シートにまとめる。</p> </p>	<p>つなげた川の絵図をもう1度見直すことで、自分が「すごい」と思ったわけを第1時よりも詳しく伝えることができた。学びのワザを振り返り、次に使おうとする姿勢につなげた。</p>  

「さけが大きくなるまで」学習材分析表

ねらい		◇時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 ◇文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。								
おわり		中						はじめ		
八 P12 L1 まどめ 〓終わり (9) (10)	七 P11 L6 〓P11 L10 答え② (7) (8)	六 P11 L2 〓P11 L4 答え② (6)	五 P9 L6 〓P9 L10 答え② (5)	四 P8 L9 〓P9 L4 答え② (4)	三 P8 L1 〓P8 L7 答え① (3)	二 P6 L6 〓P7 L3 答え① (2)	一 P6 L1 〓P6 L4 問いの投げかけ (1)	段落の構成 □読み…意味段落 ○数字…形式段落	要 点 (全員に押さえてほしい点)	
	三月 くらい？	五月 ころ？	春になる ころ 〓終わり？	冬の間 十二月 〓二月？		秋になる ころ 〓九月初め？		時		
海 〓の川	川上		北の海		場所					
生きのこった さけ	さけの 子どもたち		さけの 赤ちゃん		大人のさけ				何が	
川へ帰る。	大きくなる。	川口の近くで くらす。	川を下る。	生まれる。	たまごを うむ。	川を上る。	どうする			
網掛け…具体的に考えさせたいこと ◎ぶじに生きのこった ◎三年も四年も ◎およぎ回る ◎そして ◎大きくなって ◎自分が生まれたもの川へ 帰ってくる	◎海の水になれて ◎体がしっかりしてくる ◎いよいよ ◎広い海 ◎たくさん食べもの ◎ぐんぐん大きくなる ◎さめやあざらしなど ◎食べられてしまうなかまもたくさん	◎一ヶ月ぐらいの間 ◎川の水と海の水がまじった川口の 近くで ◎その間に、 ◎八歳ぐらい	◎五歳ぐらい ◎水にながされながら ◎いく日もいく日もかかって	◎たまごから ◎大きさは三歳ぐらい ◎赤いぐみのみのような ◎えいようの入ったふくら ◎やがて ◎それ(ふくら)がなくなつて ◎四歳ぐらいの小魚に	◎やがて ◎水のきれいな川上 ◎たどりつく ◎おびれをふるわせて ◎三十歳(ふかさ)のくぼみ ◎卵をたくさんうんで うんでうめてしまいます。	◎そして ◎いきおいよく ◎三mぐらいのたきでものり、えや ◎川上へ川上へと	◎大きさが様子 ◎時間経過を表す言葉 (つなぎ言葉など) ◎七十歳ほども			学びのワザ(「すこい」のため)

まなびのワザ 「さけが大きくなるまで」 名前

でてきたワザ

A large rectangular box with three small circles at the top, representing a 'Waza' (trick) area.

がくしゅうをつぶりがえして(しぎのがくしゅうにかしたいうと)

ことばのたからばこ

のおかげで、さけのせいちゅうついでついでよくわかったよ。
じぶんの「すごい」と思ったところがせつめいできたよ。

A large rectangular box with vertical dashed lines, representing a 'Takarabako' (treasure chest) area.